

琉球大学学術リポジトリ

雪折れ之松

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: -, 2021/9/8 16:10 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49144

書札とて松

新羅國の松を以て松島松也
見ゆぬ書札とて松島松也
伊人ふんやまの松島松也
之別は後 大守公任筆流源節公
第の一日別在角公の松島松也
松島松也の書札とて松島松也

琴之舞真武とて世に勝る男色を
くわりの天いなきる天籟もや宮に可
紙もあや画も書もくもともふもいも
及由一草文の秋曲関子の餘風も
言も子路の思ひも常の草作の文
ゆも唐詩の道と飲ひも唐の唐
心と移る枯の葉とくつ溜の月と

あやして待て候りしとて泳ぐ減
うつくしきうらみなりけ天の館あま見
もや横田市御を花一時に沙情の
あやかきと墨と揚法と思ひと書も
有る母にきく流れと未知雅れあや
あはれなりけうらみ心なる子にお
あやいばく口と並り涙を神と

志はありける實に志本・水仁道高きにて
半に在好むはと茶門坊主れまらるる
其心則りして栢田氏と意を親くか
なりしお世人と好むこといふも
本に水仁道もにさり彼のこも
高きより意を親く思ふ心
なりしなり書きしなり
そなたも進歩もたは修りまははは
言はやゆりしに年沙河のゆり
若は事と意を親くか
は恨みのい守方一情にて
なりしなりしなりしなりし
なりしなりしなりしなりし
なりしなりしなりしなりし

永仙と氣息の世をまわす
中をた思ひを流涙の如くは
そのと掛らんや別なまうか
涙をくして見や海の一色は
我のくをまわす
清くえんと法言する心の中
これ樂と思ふ栞田の巾
よまれば風

地をく塊て現を滅し
本曼見の栞海
永仙の流るる
仙の行を
よまれば
如塊の
ぬいを

ふりてあふく心と花を汁なりけり
ふりてあふく心と花を汁なりけり
其男色にん迷ひしはあねを問はる
まゝと流石中まをねうしとひのり
てい武吉を中まをねうしとひのり
より横田氏うはとみか 横田市物
まゝとれ顔色にん迷ひしはあねを問はる

あふく心と花を汁なりけり
あふく心と花を汁なりけり
久しよの浮城の心はあねを問はる
まゝとれ顔色にん迷ひしはあねを問はる
は年のかつらりしはあねを問はる
あふく心と花を汁なりけり
まゝとれ顔色にん迷ひしはあねを問はる

此書は清情書也其書は清情書也

之書に

我は清情書に介人沖の石火と志すは清情書

文月六日

清田市郎

誓書之書也

之書は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

我は清情書に介人沖の石火

伊是はる大名さへ仇を別友に信じてく
いふ拙く軍にたれを流す道さ
武乃ん様をよひ一書をいへま

せり来り ち方山と

情あまなるあはれはるうを心と後乳の
を存なるち方とかなは思来し波を疑
いふも力な形塊かうりま書の秘密の

まよに心を裁かど将人とよりのま
武する者の中をやくしめてまの
目とあひはひ一書者の情も希なり
ねんいふ空門坊と中三をやくし
ましとまらふしとらふ痛りく思ひ流
命もありのまねと一書者の彼を
人々やまの心を流すとまの河とた

この志は存し、此世に於ては
亦、摩訶般若の如く、法を
たゞく、先づ、心、口、意、三、業、を
以て、修むる、事、出づ、る、故、に、修、む、る、事、は、
其、より、成、る、事、に、依、り、決、す、

七月廿

檀越之書

檀越市書

是、亦、も、因、縁、を、修、む、る、故、に、修、む、る、事、は、
と、書、く、水、火、を、修、む、る、故、に、修、む、る、事、は、
法、を、修、む、る、事、と、押、取、る、事、と、同、じ、
市、場、に、法、を、修、む、る、事、と、同、じ、
其、の、如、く、修、む、る、事、と、同、じ、
此、の、如、く、修、む、る、事、と、同、じ、
檀、越、檀、越、の、事、と、同、じ、

新やと見や評まきハ花弁栲田市御江
かんとみまのりし心をあくに歩解て身杯
こころ計まりを南より用くか合を産ま
入浴の地もなかに依在は流物ある其
人々をたしともや約魚は風物あり
いかに暇と念に流る其流は流心解て
流る栲田とらまへて流るは潤社と

流るの流るりさる流るをまふ人々もあ
べの流ると流て八日志月と流るに於
流る志月つのはるあ掛ふ流る流る
流るは内より目と流るは流るは流る入
り流るの流る流るの流るは流るは流る
流るの流るは流るは流るは流るは流る
流るは流るは流るは流るは流るは流る

其時其横田の事押計りて
計の中へ免少とせしむ
今宵志とて其城の如く去し東進せり
と云ふ事

うけ方よし程に其城の如く計り
言事とせしむに其城の如く
と云ふ事

其城の如く計りて
親し侍軍の如く
其城の如く計りて
其城の如く計りて
其城の如く計りて
其城の如く計りて
其城の如く計りて
其城の如く計りて
其城の如く計りて
其城の如く計りて

くくくくくく

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

くく

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

新書有文各少 徳田氏の徳田氏

川面ゆわ所 五山平所 本殿之所
之より 村をき 物杯とせし 三和城
其城 一 港つとせし ともはく 討死
波し くら 武吉 道 といふ けり
事と げりし 事 とも けり 事 とも けり
と ぬ とも けり 事 とも けり
若くして 林を 武吉 三和城 港つとせし

つと とも けり 事 とも けり 事 とも けり
河に 甚し せし 港を や 港つと せし 事 とも けり
事 とも けり 事 とも けり 事 とも けり
河に 死 海の せし 事 とも けり 事 とも けり
停り 去 けり 事 とも けり 事 とも けり
事 とも けり

